

理科學術談話會々報 第九號

目次

◎講話

おきなえびす及さやなみ	岩川 教授
小笠原及硫黄島旅行談	脇水 講師
器械畫法ノ誤差	上原 いつ
蟲癭ニツキテ	阿部 とく
「インク」ノ製法	牧田 らく
接木雜種	宮崎 素
◎寄稿	
水前寺のり、「アカンサス」 及ビテウセンにんじん 卒業生諸子ニ告グ	矢部 教授 乙部 教授 保井 コノ
みづにら及ビくらまこけ	
◎本會記事	
◎雜報	
◎新著紹介	

廣 告

本會ノ庶務會計取扱方ハ是迄富岡
龜門氏ニ囑託シ居リシガ今回都合
ニ依リ平島權藏氏ニ依囑スルコト
ナリタレバ今後會費御送付ノ件ハ
勿論其他本會ニ關スル一切ノ事ハ
東京女子高等師範學校動物學教室
ノ同氏ニ宛テ、御照會下サレ度候

五月 日

理科學術談話會

會費未納ノ方ハ至急御拂込被下度然ラザレ
バ御一名毎ニ請求致ス可キ事ニ相成手數甚
シケレバ何卒此際一部分ヅ、ニテモ宜敷候
ニ付御送付被下様希望之到ニ御座候

理科學術談話會々報 第九號



おきなえびす一名長者貝

岩川 教授

元來おきなえびすの類は古生代の志留利亞紀に現はれ、中生代に入りて蕃殖を極めしも、其の後漸次に衰へ、從つて其の化石は四百種あれども、現今生存するものは世界中僅に四種の外に出でずして、其の中の一様は本邦の沿海に産すと稱せられたり。これを初めて學界に紹介せるは明治七八年頃今の醫科大學の前身たる東校に教授の職を奉じたる獨逸人ヒルゲンドルフ氏にして、氏は本邦に滞在中、相州江の島の貝材工物店に鬻ぎ居れる貝殻中にこれを發見せりといふ。氏は歸國の後 Pleurotomaria beyrichi なる學名を以てこれを學界に報告せり。故に、本邦産の標本は唯此の一個に止まり、而かも其の精細なる産地は不明に歸し居れり。

今を距る約二十年前、英國博物館より此の貝殻一個二百圓にて募集致したき旨を我が大學へ照